

共  
三  
十  
本

成  
形  
圖  
說

菜  
蔬  
部

二  
十  
六



特 別  
三 一  
144  
25



加 /  
144  
卷 2625

成形圖說卷之二十六

目錄

壺盧 ヒガコ

附瓠瓜 ヒガコ

懸瓠 ヒガコ

苦瓠 ヒガコ

冬瓜 カモツリ

胡瓜 ソウリ

絲瓜 ヘチ

苦瓜 ニガクサ

茄子 ナス

附海茄子 ナス



成形圖說卷之二十六

成形圖說卷之二十六

菜部 蒞瓜類

蒞ハ和名鈔久佐久太毛乃也訓曰久太毛乃ハ本水種物  
 あり俗小果子と云ふも本安あり物多し名をかし市肆  
 記小果子部ありて餅糖と多く載り此等のおよしは朝野  
 群載みおろえ小和名鈔引漢書注水實曰果艸實曰蒞  
 又云有扶曰果無扶曰蒞說文又按子王禎農書云瓜類不  
 本上曰果地上曰蒞蒞音裸  
 同其用有二供果者為果瓜甜瓜西瓜是也供菜者為菜瓜  
 胡瓜越瓜是也然どら蒲蘆今食ふ者おろ西瓜却て菜と  
 ちん子多しり況や又之と艸果と稱ふ豈煩一く両に分

川をさうは凡藤木の種其花率高脚杯様とあやう又花  
 の萎落をのハ花蒂に実を生し花散謝をのハ花心子実  
 を生せる凡果疏に花の吐て実を成さると書紀に歸  
 花と云ゆ俗の謂風花徒花あり齊民要術に浪花と云を  
致富全書に狂花とあり  
 壺通凡と云るハ花萼のおどゆら子あやうの壺盧の  
 おどきハ形の壺に似せしるハ負せしあやうの  
 皇國種々の物ハ儘二柱の大御神を産むひしとが中  
 に比依古てふものハ天吉葛とて又天之久比奢母智神  
 國之久比奢母智神と稱へる水分神の次子生まゆるハ  
 りの火と云ふハ伊弉諾伊弉册ハ即伊弉持

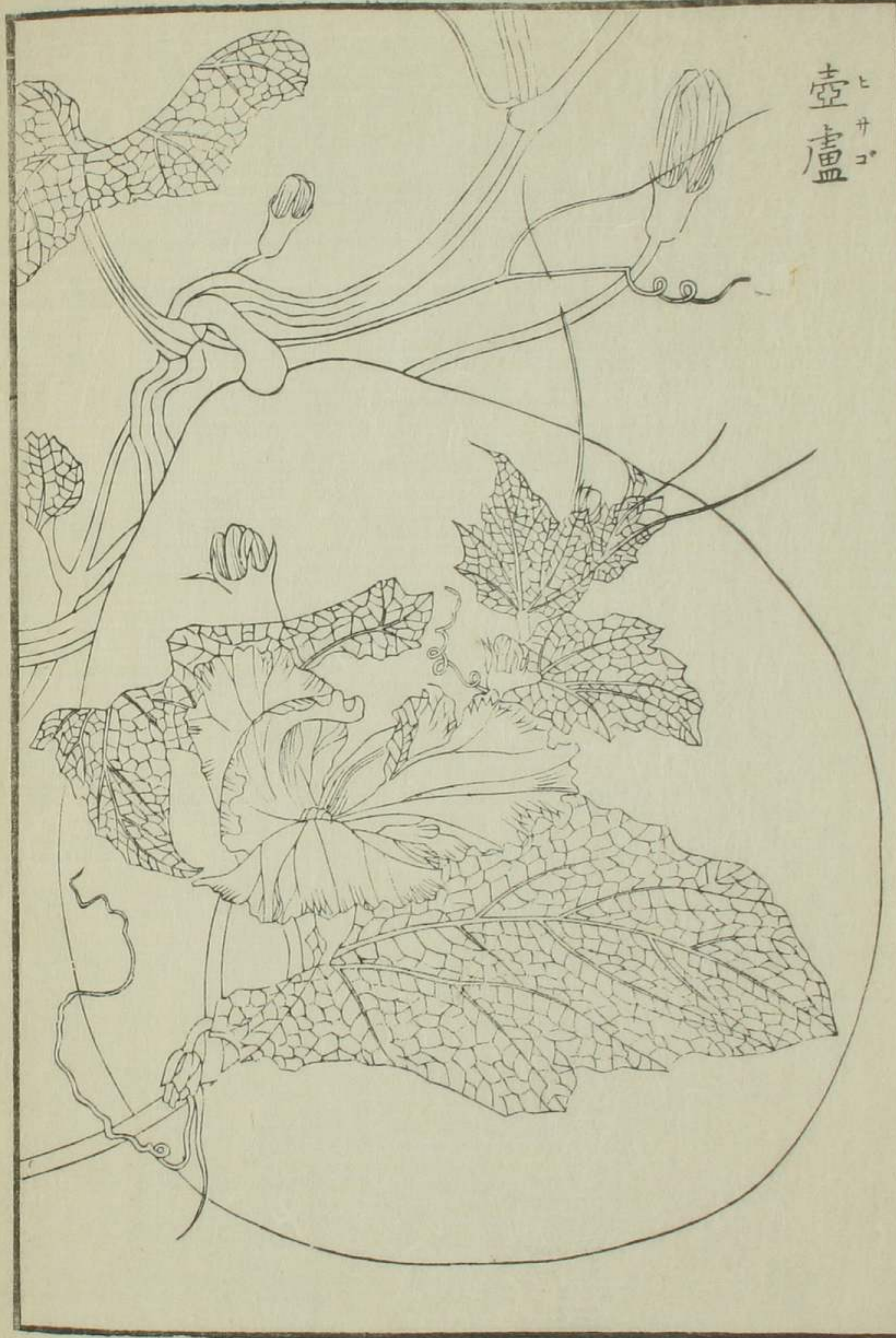
の義あり水と云ふ水と施し功と成さしるハ一と而  
 その水と挹の用ありしや又実と俣て食し能人  
 乃水道を利と云ふはハハの源故ありと云ふハ又  
 久々の天と云ふハ頭禱ハ瓠葛と書さるハ續後紀  
 小呂えさハ是ハ天の形乃宮窿ありて水く懸て墜さる  
 が如きとハあ物ハ解て呼るハ假字書せしもの漢籍  
 あり器用陶匏以象天地之性といへりこれと久賢て  
 稱ハ日指方ありて天は日の指象ありと云ふあり生  
 譯子規落葉をさるるをさて匏てふもの後ハ其形の  
 異ありて就てさるる状を名し他の邦をかくるあり

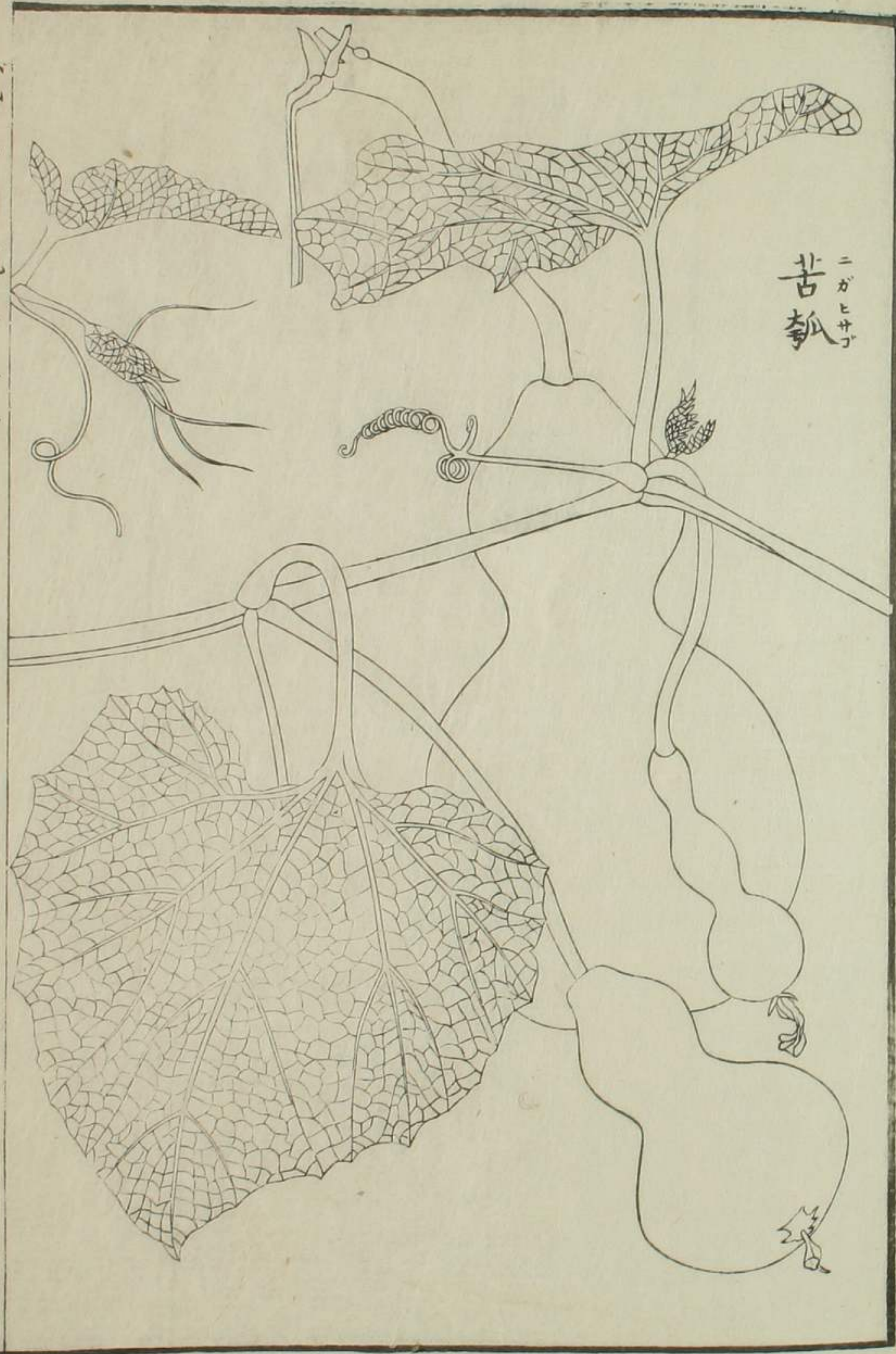




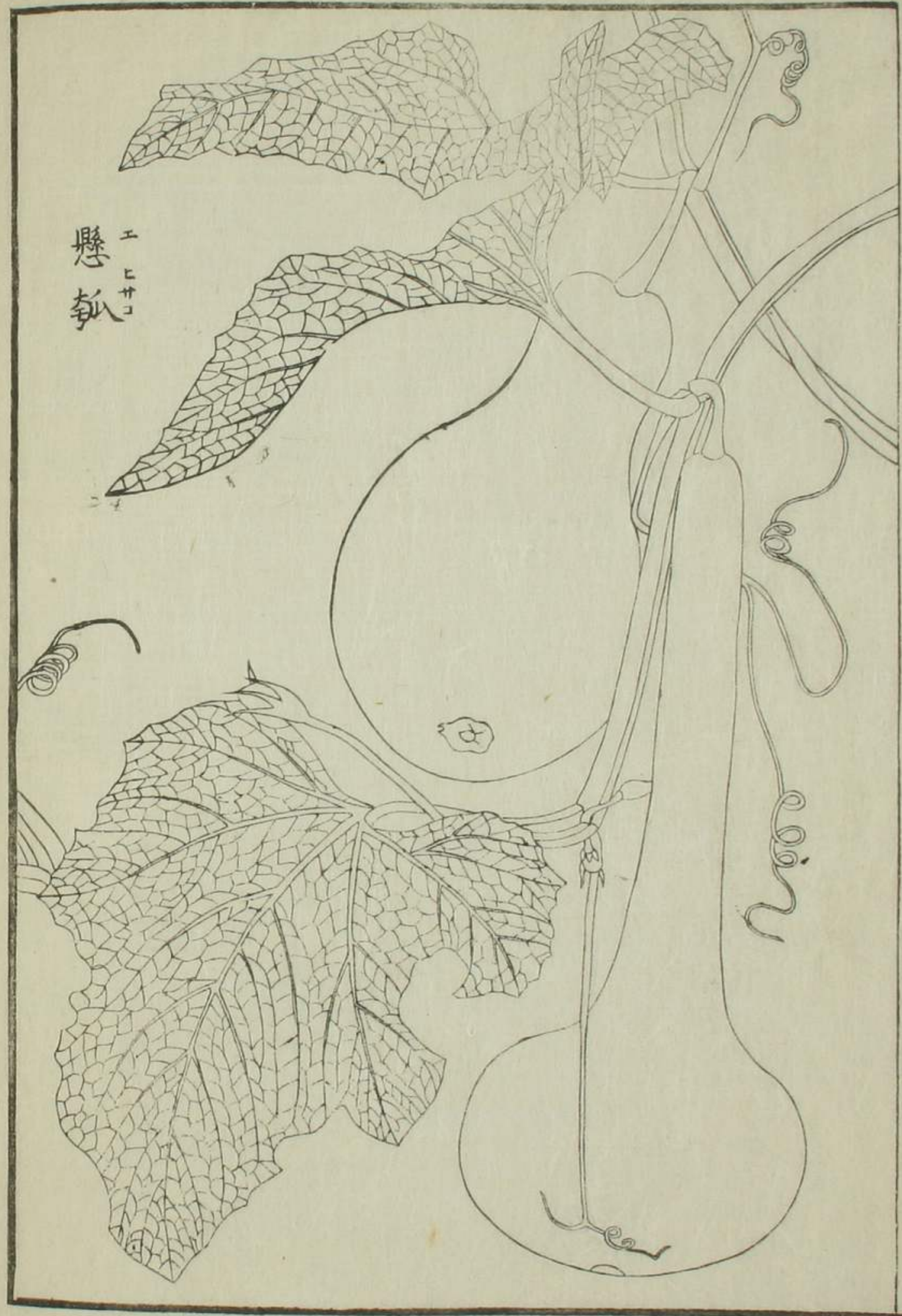
瓠瓜 ナガヒサゴ

壺盧 ヒサゴ





苦瓠  
ニガヒサゴ



懸瓠  
エビスゴ





杓ツク夕ツク顔ツク古ツクのツク杓ツクとツクせツクしツクハツク即ツク別ツクてツク杓ツク夕ツク類ツクとツクせツクるツク杓ツク子ツク

懸ツク瓠ツク子ツク綱ツク目ツク一ツク頭ツク有ツク腹ツク長ツク柄ツク者ツク長ツク柄ツクハツク瓢ツク柄ツクのツク也ツク茶ツク酒ツク瓢ツク上ツク同ツク

東ツク吳ツク法ツク名ツク物ツク長ツク柄ツク葫ツク蘆ツク全ツク致ツク富ツク瓢ツク子ツク蒙ツク荃ツク長ツク頭ツク葫ツク蘆ツク時ツク授ツク

仁ツク賀ツク比ツク佐ツク古ツク本ツク州ツク和ツク名ツク○ツク按ツク小ツク葫ツク蘆ツクのツク古ツク名ツク可ツク據ツク之ツクのツク仁ツク賀ツク比ツク佐ツク古ツク本ツク州ツク和ツク名ツク○ツク按ツク小ツク葫ツク蘆ツクのツク古ツク名ツク可ツク據ツク之ツクのツク

夜ツク瓢ツク和ツク漢ツク圖ツク會ツク千ツク生ツク細ツク小ツク腹ツク瓢ツク袁ツク備ツク布ツク久ツク倍ツク小ツク頭ツク識ツク編ツク○ツク蓋ツク仁ツク賀ツク比ツク佐ツク古ツク本ツク州ツク和ツク名ツク○ツク按ツク小ツク葫ツク蘆ツクのツク古ツク名ツク可ツク據ツク之ツクのツク

良ツク將ツク之ツク用ツク兵ツク有ツク饋ツク箠ツク醪ツク者ツク使ツク投ツク諸ツク河ツク與ツク士ツク卒ツク同ツク流ツク而ツク飲ツク夫ツク一ツク受ツク天ツク生ツク一ツク寸ツク小ツク瓢ツク箠ツク和ツク字ツク通ツク例ツク俗ツク二ツク字ツクのツク音ツクとツク小ツク瓢ツクのツク名ツク

箠ツク之ツク膠ツク不ツク能ツク味ツク一ツク河ツク之ツク水ツク而ツク三ツク軍ツク之ツク士ツク思ツク為ツク致ツク死ツク者ツク以ツク滋ツク味ツク之ツク及ツク已ツク也ツク○ツク瓢ツク箠ツク和ツク字ツク通ツク例ツク俗ツク二ツク字ツクのツク音ツクとツク小ツク瓢ツクのツク名ツク

成形圖說卷之二十六 八

ハ皆同じ並に二月中子種と下し先嫩草と出し葉間よ  
 平莖を芽と漸く蔓と引て樹子繞り架子攀上る二言集  
 此山々の竹垣枝をせよゆり類あれはすらし  
 すらし子みふ月におる青蒂白瓣の花さく芙蓉のり枕  
 叶子み夕ぐほハ朝顔に似ていつて多たるとおくし  
 かりぬべさむの状みてあそぶるのゆりさゆしを實の  
 とし草れおどてさ將生土多んぬらつるまど云者のや  
 うみぎんゆれおしこれぞ移々秋とつる名汁ハおろし  
 万葉に青角髻あささといひりり飽の蔓ハ莖ハ葉ハ  
 めよみ草りれバ草とつるみ美観とよつてあそぶるも

ゆり葉ハ柔毛ゆれど嫩時ハ烹て食ふべし并若くてゆ  
 し子種とあり凡實ハ淡黄みして法ハ黄褐智ハ密赤  
 の和名小飽ふるゆり也此と割バ瓢あり色白し亦之と  
 形と云瓢中の子裔整て齒列毛詩に齒如瓠犀是あり  
 傳子屏ハ辨又云榊ハ瓠（崇峻紀）殿戸皇子束髮於額  
 中辨也棲與屏字異音同（崇峻紀）殿戸皇子束髮於額  
 とゆりて古俗年少兒年十五六間束髮於額十七八間分  
 為角子今亦然と云ゆ枕叶子みいまぶひさご髪のみ  
 しかくて目さゆかどあると云り通證曰束髮於額ハ  
 訓瓠花狀其形也蓋髪と束て其餘の散花多しハ瓠花の  
 筒子様ありみ似たりといふ事紀束といハ今仲産童

子ガ額カシ子髪カシと束カシ縮カシしカシかカシどカシいカシ一カシのカシ極カシ子カシ録カシ信カシ  
 流カシ求カシ婦カシ女カシ簪カシ用カシ玳カシ瑁カシ倒カシ挿カシ髻カシ中カシ朝カシ額カシ上カシ髻カシ甚カシ是カシありカシ童子カシ  
 未カシ及カシ總カシ角カシ同カシしカシ入カシ角カシ子カシハカシ日カシ本カシ武カシ尊カシ貴カシ度カシ十カシ六カシ歳カシのカシ時カシと  
 ハカシ古カシ事カシ記カシ曰カシ即カシ美カシ豆カシ良カシありカシハカシ其カシ御カシ髮カシ結カシ於カシ額カシとカシ不カシえてカシ角カシ子  
 とカシるカシガカシ角カシのカシ如カシくカシありカシぬカシみカシのカシ如カシくカシ今カシハカシ有カシなカシりカシ韓カシ子カシ縮カシ髪カシのカシ存  
 とカシとカシハカシ此カシ美カシ豆カシ良カシとカシ此カシ身カシのカシ記カシありカシ今カシハカシ有カシなカシりカシ韓カシ子カシ縮カシ髪カシのカシ存  
 さカシとカシハカシ仲カシのカシ男カシ夫カシ乃カシ本カシ髮カシとカシ偏カシ頭カシとカシ云カシこカシはカシ吾カシ國カシ人カシむカシりカシし  
 ハカシ雙カシ髻カシありカシしカシとカシ沖カシ港カシハカシ特カシ縮カシ髪カシみカシせカシしカシゆカシ島カシ偏カシとカシりカシのカシりカシ  
 南カシ島カシ我カシ古カシ俗カシ乃カシこカシとカシぐカシ特カシ縮カシ髪カシしカシゆカシ島カシ偏カシとカシりカシのカシりカシ  
 此カシハカシ茲カシのカシ壺カシ盧カシのカシ色カシ子カシのカシのカシとカシ大カシありカシハカシ味カシ甘カシしてカシ食  
 ぬカシしカシ又カシ日カシ子カシ曝カシしカシ乾カシ蔬カシとカシせカシるカシとカシ干カシ飯カシとカシりカシ通カシ和カシ字カシ本カシ料  
 釋カシ名カシにカシ飯カシ蓄カシとカシ乃カシえカシりカシ受カシ哺カシとカシしカシ蓄カシ字カシとカシ下カシりカシ詩カシ子カシ八  
 月カシ断カシ壺カシのカシ干カシ飯カシハカシ大カシありカシてカシ扁カシとカシ取カシ用カシふカシべカシしカシ夏カシ土カシ用カシ中  
 とカシ云カシりカシ

子カシ搽カシてカシ横カシ子カシ切カシ片カシハカシ味カシとカシ瓢カシとカシとカシありカシ白カシ肉カシとカシバカシ薄カシくカシ剥カシ連カシ  
 てカシ也カシ一カシ二カシ丈カシ架カシ子カシ掛カシ晒カシしカシ乾カシさカシさカシれカシバカシ白カシおカシとカシ酒カシ紙カシのカシお  
 とカシしカシ大カシ和カシ李カシもカシてカシハカシ一カシ日カシ子カシ乾カシ上カシるカシ女カシ童カシ衣カシ集カシてカシ剥カシ子カシ子カシ懸カシ  
 しカシとカシのカシハカシ数カシ十カシ行カシとカシ地カシ色カシのカシ津カシ同カシ本カシ津カシ難カシ波カシ依カシ徳カシ福カシ富カシあカシと  
 ありカシ多くカシ出カシしてカシ四カシ方カシハカシ衛カシありカシ性カシ味カシ淡カシ薄カシ氷カシ道カシとカシ利カシ以カシ  
 此カシのカシ種カシてカシ蕃カシ漢カシやカシらカシくカシ培カシ養カシのカシ勞カシとカシぬカシらカシどカシそカシ用カシ多カシし  
 蒲カシ蘆カシハカシ味カシ苦カシくてカシ食カシふカシのカシ堪カシへカシどカシ固カシてカシ綱カシ目カシ等カシもカシ苦カシ壺カシと  
 めカシてカシ称カシやカシりカシ熱カシてカシ後カシ子カシ瓢カシ中カシの子カシとカシきカシりカシ器カシとカシあカシやカシりカシ最カシ小  
 くてカシ一カシ莖カシよりカシ粒カシ十カシ實カシ成カシとカシ干カシ生カシ百カシ生カシあカシどカシいカシ一カシ日カシ○カシ凡カシ壺カシ  
 盧カシ苦カシ壺カシ盧カシハカシ水カシみカシ入カシてカシ沉カシどカシよくカシ浮カシとカシとカシ昔カシよりカシ川カシ流カシる



此酒と酌と合登と云既子飲畢て復奉のおとく合登  
の道乃天竺ありつゝの地酌づく成り吾邦ありて見と合登  
蘆水許傳字み見ゆ又魚隠叢話み油葫蘆あり凡瓢と酒葫  
盒具と造る子小中又理光田て観て美と下と屬て接合凡瓢  
て製る子あり庭川往茶瓢と載せり○凡瓢の者大か  
るハ一莖に一二実と満るやうに赤刺の、蔓とも長そ  
ゆい頻子培養を施れば実を大してその四斗と  
著れどの瓢出するし農業全書みと云ふやうに就ども  
仲焼の瓢ハかく紫い成りて大なるハ一拱ありて  
そ一とばあ人しと僅く持ちどりの重なり常子ハ菜茹子  
次○凡瓢の種子は收て釜下成は爐上に懸て水氣と脱

其嫩生の時子種もて意子地せ繋り常はいらやうある  
形みと造化ものあり圖繪子載に大和法護寺子尺許の  
瓢ありて聖賢の像と隠起しして面容衣冠儼然と  
不<sup>レ</sup>足<sup>レ</sup>異<sup>レ</sup>也又見甚長而物其頸結之若<sup>レ</sup>繩狀上<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>何<sup>レ</sup>棹<sup>レ</sup>必<sup>レ</sup>結<sup>レ</sup>  
之也或云以燒酒沃之則軟而可結○心むりし武棹必<sup>レ</sup>結<sup>レ</sup>  
奈良瓜と所集福禪寺の壺道谷和為と云大徳あり  
性瓜と布し法園子種るの壺と極て菴の生と候なり  
峽かぐと布し法園子種るの壺と極て菴の生と候なり  
交<sup>レ</sup>授<sup>レ</sup>め水塵乃金釘覆の瓢或ハ鮮<sup>レ</sup>物ハおもい切<sup>レ</sup>皆<sup>レ</sup>波<sup>レ</sup>の  
み<sup>レ</sup>記<sup>レ</sup>あり<sup>レ</sup>令<sup>レ</sup>什<sup>レ</sup>宝<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>妙<sup>レ</sup>造<sup>レ</sup>化<sup>レ</sup>工<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>奪<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>瓜<sup>レ</sup>和<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>  
成<sup>レ</sup>形<sup>レ</sup>圖<sup>レ</sup>說<sup>レ</sup>卷<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>二<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>六<sup>レ</sup>  
十<sup>レ</sup>二<sup>レ</sup>







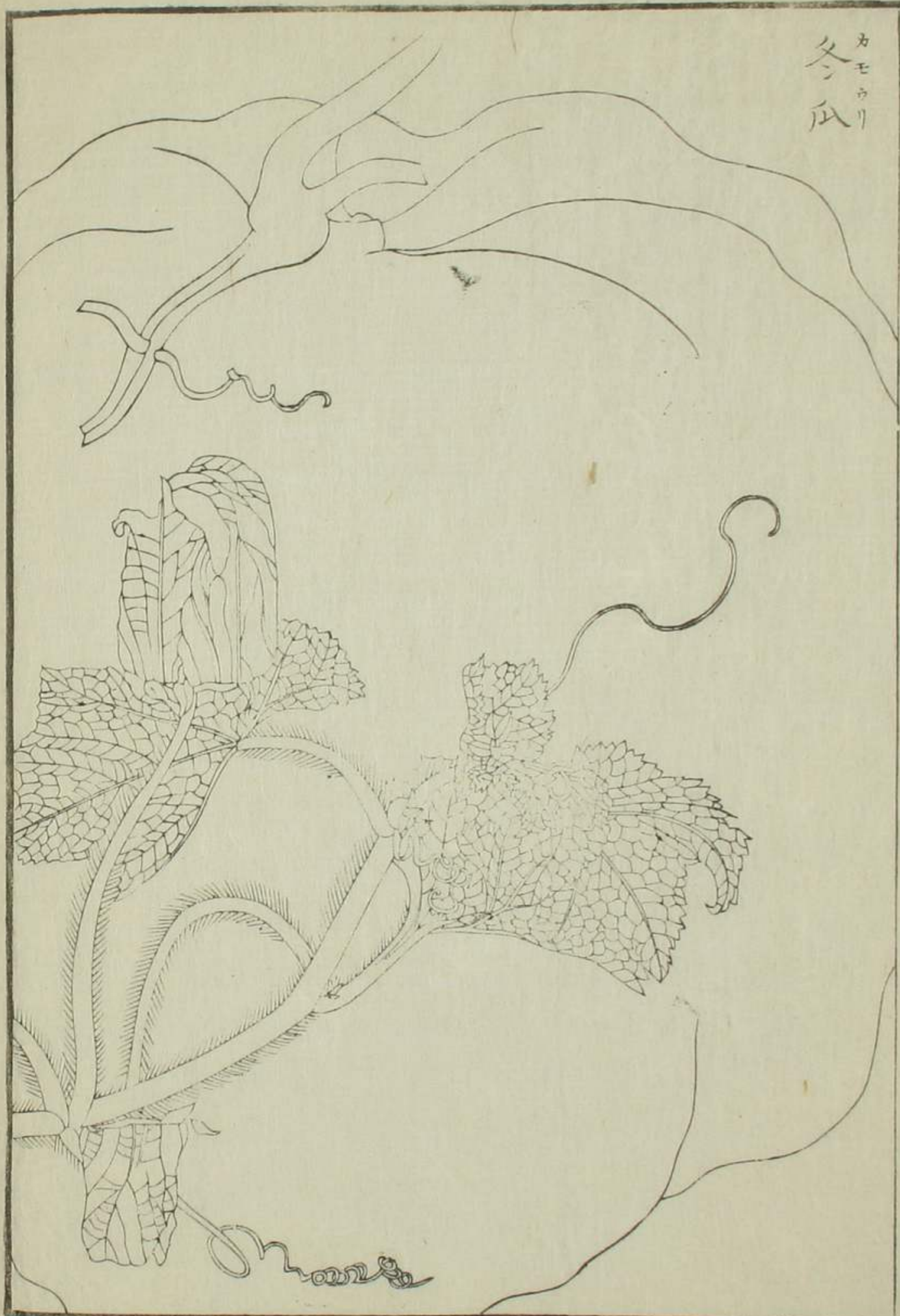






胡瓜

冬瓜



熟是亦寒瓜の種あるへし宋書瓜州出 ○凡冬瓜ハ  
 大瓜狐入 其中首尾不見亦冬瓜あるべし  
 実重大多 瓜小 軟り ねバキ半熟あんん の索ナ とて  
 縛り 或ハ苞フ して承ツ つ架ナ 上ニ 懸カ ぶく 蜜ラ 漬レ べし之  
 く蓄ム むハ 其ハ 疴キ ちキ と擗テ 風ノ 中ニ らズ 不レ 收メ 疴  
 疴ハ 所ヨ り腐傷メ り ○埤雅云瓜性惡香尤忌聞麝  
 麝氣觸之乃至一蒂不救細目ハ冬瓜酒醃麝香糯米  
 種民家の菓子用て實利多し性 寒良 し南多 果ハ  
 砂糖と 製ス 時此と のと入テ 蒸シ つ茶果子 付ス 甘  
 美あり網目子 中實と 瓜練と ぬく衣服と 洗ヒ 練ベ しニ  
 油ち どの洗 たると ぬく脱 ヤハ 功能 許多 あり ○飲膳正

要九月勿食著霜瓜 ○冬く 付ヘ 冬瓜 舊疰 と治ム  
 氣味甘く性微涼み して毒を 除シ ○主治水脹と 除シ 二便  
 を利シ 湯と 止リ 黒炒と ぬシ 口中 乃諸 病と 治ル ○葷毒  
 子中 瓜少 許を 抽キ 和セ て食ム べし村家救急  
 集成子 冬瓜を ○小兒疳氣は 冬瓜陰乾 一方 猪一 膽一 搗栗  
 生瓜 と作 豆を ○小兒疳氣は 冬瓜陰乾 一方 猪一 膽一 搗栗  
 と割 之合 也粉 ぬシ 塩湯子 用シ 一方 小兒渴痢  
 とて 候間 ちく 乾子 冬瓜と 搗紐 汁と 服ブ 一方 萬安

稜瓜ハ 和名鈔の 稜ハ 角あり 乃謂  
 黄瓜ハ 同上俗云 水字 利和名 加良字 利和名 布牟字 利多識  
 稜瓜ハ 和名鈔の 稜ハ 角あり 乃謂  
 黄瓜ハ 同上俗云 水字 利和名 加良字 利和名 布牟字 利多識

胡瓜 嘉祐○時珍云漢張騫使西域得種故名胡瓜 黃瓜 杜寶拾遺錄隋大業四年避諱改胡瓜為黃瓜

飲膳正要黃瓜味甘平寒有毒 動氣發病令人虛熱不可多食 王瓜 致富全書○綱目

瓜即今黃瓜之通稱字注云一說王瓜 刺瓜 八閩通志○其

而青以上本艸 白路黃瓜 雜記 勒瓜 小汁 青瓜 牛狀似

蕃名夕ムメ コンコムメレン

止二月子春暖氣を催しかば即向陽と擇之種と下

以づし二月中よりは苗と生か一二尺づつ播て栽す

播すは苗と疏植べし整ふれば蔓葉のよき實を採し

蔓に鬚と出しかんとせば速く疎植と嘗て纏絡せし

六七尺と長く時蔓梢と指刺べし又花子狂花多し

實と成ハ初より實を花苞と戴て出ると花朽つ實墮て

四月中旬より既に熟なり長さ一二尺亦短きものあり凡

實小種と成し瘡癰ある初ハ青く後黄赤色とある

青の時に採くらふ秋の季ハ枯水ぬ○這黄瓜ハ地子

やて蔓生なり實ありおと頗早し○櫛瓜ハ中ハ三

角の空廻り者五六寸廻りゆるりの又長瓜瓜わ

長きのは一尺一二寸より常かると垣黄瓜と

籬子繞り極み名く○此の瓜より早く實ある

と費ししとほつて日乾塩糟の漬物と皆越瓜子

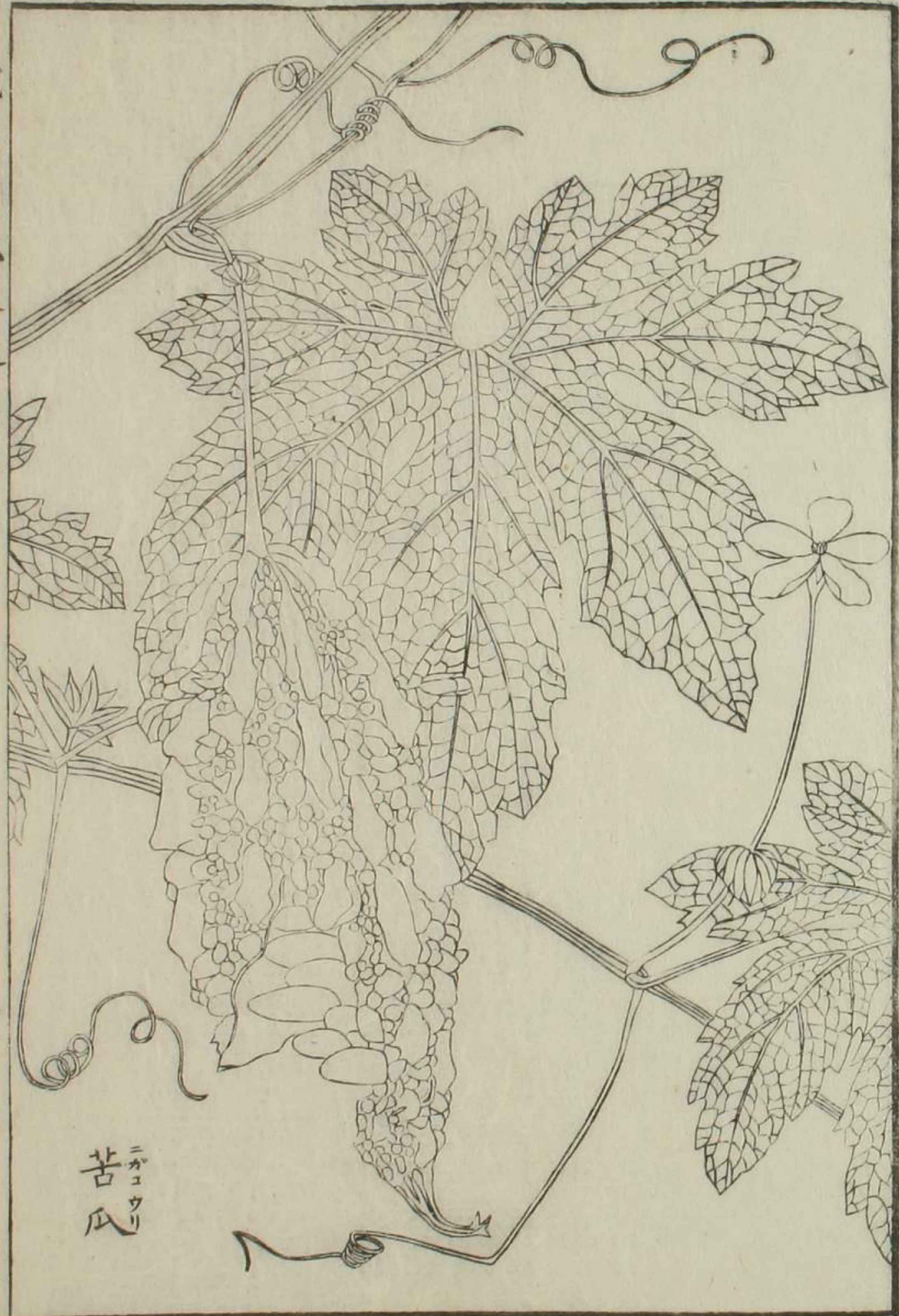
及んば夏月生きて刺魚肉磁石和又生漬子宜しり水バ  
 庭州法末子の酢菜胡瓜甘漬と載りり○祇園土生の人  
 黄瓜と食ふおと忌ハ織田信也京の祇園社と再興セ  
 られし時自の紋揃木瓜の章と神物乃裝飾とせりり  
 依化て木瓜此章と取らひて此慈とあやるよし和漢圖  
 繪子出やのしをや太上天皇は御服赤袍とめ瓜と氣  
 との御紋と深ゆる、おどわれむそもく祇園社瓜の  
 章辨と用らるるも極ありふやふと  
 氣味甘く性寒し一毒なし或曰小兒ハ宜く忌べし○  
 主治黄瓜の熱の時陶器の磁石を氣油さるやうに

蓋の合セ目と成りて流りぬると凡一ヶ月汁ありて  
 瓜をけて水と煮る此瓜と火傷小貼とば忽ち治あり  
 ○梅子の體集平時老黄瓜と收り厚實の磁石を  
 暗濕の交り痛止ぬと起す余切時火中火傷入  
 て半時皆傷る連ふ療すら効ふし此方と好て思愈と  
 りえ○燒酒粟盛の毒子中る時ハ黄瓜と搗碎して汁  
 と飲べし蔓子とよし拙子本朝經驗と燒耐子碎死し  
 子凡二三寸徑味苦と立子懸とあり是也○湯火傷子ハ生  
 肉一汁と聯蓄べし立子懸とあり是也○湯火傷子ハ生  
 胡瓜一味汁と絶附べし常子壺子蓄へるべし○小便不  
 通子胡瓜乾水にて為めかく煮じ用ふ○又方鉄精と押  
 糊子合餅子附く枯禁加てふし○淋病滞下子胡瓜根と

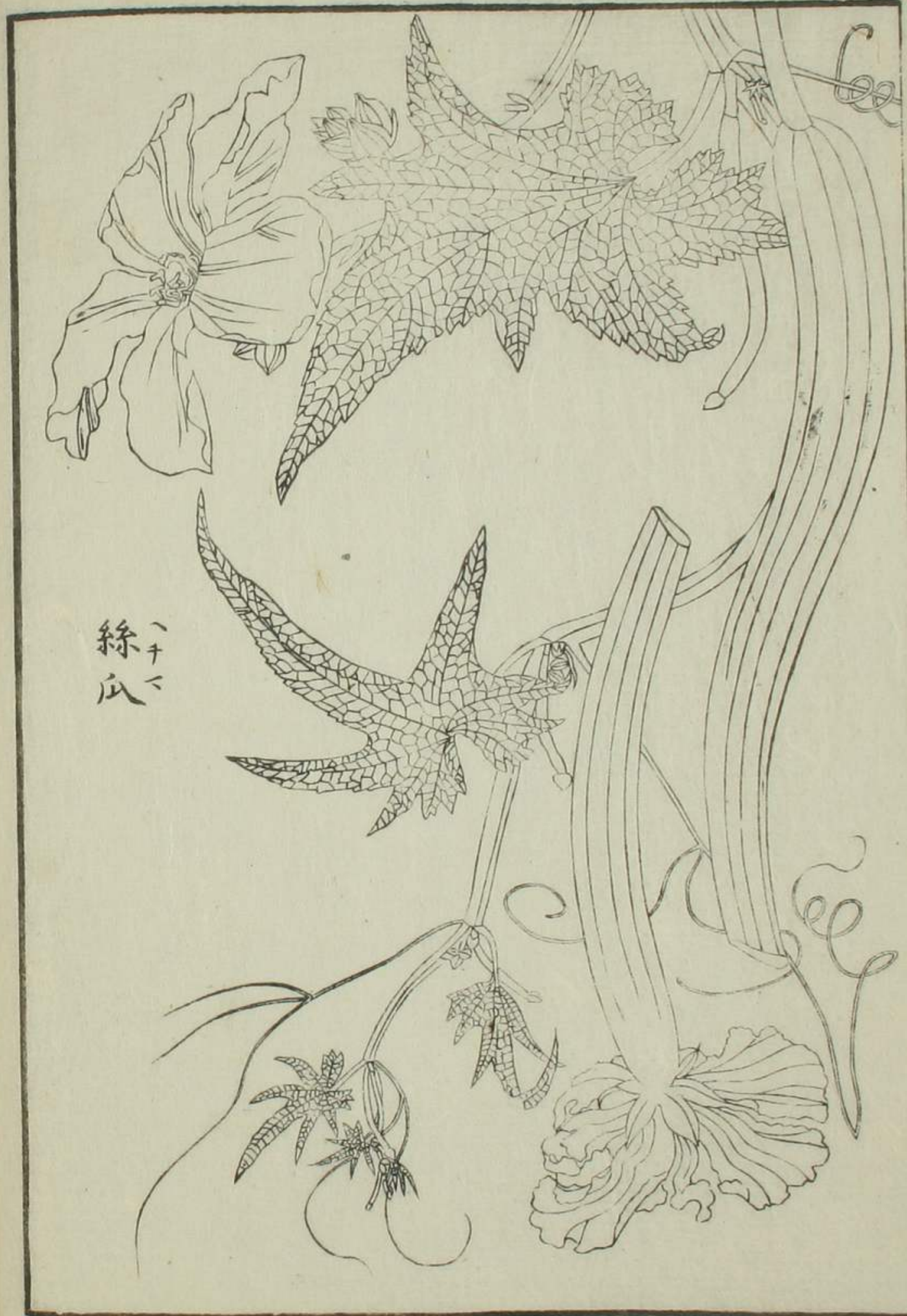


とろろごうとありき ○凡、二月初子此子と灰水（浸す）  
 て後種（下）し或ハ時て日々に水（浸す）の氣（絶）ぎるやうにす  
 れバ皆子く夢と夢（引）れ而樹竹と種（種）て蔓と引（引）む葉間よ  
 子巻鬚と出し輝（ひ）上（上）て五六尺（尺）子成（成）る頃（頃）子厨下（厨下）の  
 残水（水）を浣（洗）せばそ滋蔓（蔓）おと十（十）倍（倍）に（倍）よく肥（肥）るハわろ  
 し又棚（棚）は構（構）一蔓（蔓）の草（草）て十（十）幅（幅）丈（丈）子及（及）べハ緑稜（稜）わら（わら）ハ  
 め六（六）了（了）尖（尖）と智（智）し種（種）青緑（青緑）ふし（ふし）汁（汁）と絞（絞）る物（物）と深（深）べし六  
 七月（七月）子むらみ（むらみ）種（種）乃深（深）芽花（芽花）と吐（吐）く初（初）ハ浪花（浪花）多（多）し但（但）實（實）と  
 結ぶ（結ぶ）の（の）は初（初）あり実花（実花）と戴（戴）く初（初）ハ瓜（瓜）乃お（お）し（し）そ實（實）は  
 八月（八月）末（末）より熱（熱）初（初）て（て）種（種）子成（成）て七八月（七八月）子むらみ大（大）さ四（四）

寸圍（寸圍）七（七）三（三）尺（尺）末（末）漸（漸）く（く）存（存）しハ長（長）絲瓜（絲瓜）わら七（七）尺（尺）  
 小（小）さ（さ）り初（初）より架（架）と高く（高く）種（種）る（る）べしそ短種（短種）と小石（小石）と末  
 子縛（縛）壺（壺）は實（實）子種（種）て（て）長く成（成）あ（あ）と亦（亦）六（六）七（七）尺（尺）あり肥（肥）子種（種）と  
 用（用）一（一）バ必（必）い（い）長く成（成）と（と）し○ほ（ほ）子（子）敵（敵）紋（紋）巧（巧）を熱（熱）る時（時）浮皮（浮皮）  
 と包（包）丁（丁）刀（刀）み（み）て刮（刮）きり豚肉（豚肉）抱（抱）魚（魚）の乳（乳）と回（回）し（し）煮（煮）食（食）ふ嗽（嗽）  
 子（子）む（む）み（み）し或（或）ハ鼓田（鼓田）樂（樂）と乳（乳）豆腐（豆腐）壺（壺）と（と）は管（管）味（味）を（を）む（む）ら（ら）あ  
 又狂（狂）花（花）并（并）子嗽（嗽）系（系）巻（巻）鬚（鬚）と論（論）て醋（醋）習（習）と和（和）て食（食）ふ（食）し○實  
 老（老）ゆ（ゆ）れ（れ）ハ硬（硬）し露（露）と種（種）てハ黄褐（黄褐）色（色）あり此（此）と種（種）て水（水）  
 浸（浸）し（浸）ぼ（ぼ）と除（除）く（除）よ（よ）そ中（中）の羅文（羅文）縦（縦）横（横）子絡（絡）て織（織）成（成）る（成）か（か）し  
 瓢（瓢）の中（中）子（子）け（け）り色（色）黒（黒）く扁（扁）し收（收）蒴（蒴）子（子）は枯（枯）る（枯）實（實）房（房）とも



ニガウリ  
苦瓜



ハナ  
絲瓜



瓜と絲瓜羅と云鍋釜の炭と燻み宜し又鞞底み藉て佳  
 し浼かば浼て浸藉べし凡面部の脂垢と洗ふべし鬢  
 髪と去みハこのものと湯み浸し髪は毛軟くありて鬢  
 やとせし○八月十日の夜に蔓地あり二三日の瓜と切を  
 切りと瓶中に挿置ば漿液多く出ゆ此とて面と洗ひ  
 衣と浼ふみ膩と去り又面脂み和て肌を潤ひ故に俗に  
 美人水と呼ぶ此と煉て痰火を治め或ハ夏月小兒の癩  
 瘡を治して効あり○此汁と相て白湯葉茶子代て飲  
 み嘉し○亦傷寒指掌疑云絲瓜蒂を以て甜瓜蒂に換

用る處とゆは是醫書中始て見えたり○群芳譜云舊傳  
 絲瓜能敗陽毒これと水と煮るに瓜の汁を以て腦漏みハ莖と  
 煮みし日子白湯みで飲下はべし  
 氣味甘く性寒みて毒かし○主治腫を消し痰を化し  
 蟲を殺し○汁生みて飲ハ酒醒を解く本朝經驗○蒂の効益  
 し瓜蒂と相適ふ傷寒指掌疑○痰喘咳嗽と治る方絲瓜一  
 味ゆまして意み漬せ白湯みで用ふべし○溼癩みハ絲  
 瓜の蒂を燒細末みし麻油みで調附べし○小兒黃爛癩  
 みハ絲瓜と煮るもみ搗つぶし米粉と入附べし天疱瘡  
 みもよし○小兒痘毒みで咽の痛みハ絲瓜と煮燒細末

子し白沙糖と加へ用ふ○又方絲瓜の汁水と燻め臍  
 脂と子用ふ○蜈蚣蛭らに絲瓜の根と搗て海  
 少て用ふれば痛忽み上む  
 一以上和方

苦小瓜 和漢三才圖會

苦瓜 吳宇利蓋ニガウリの蔓荔枝多識 唐吳宇利  
 約アセ

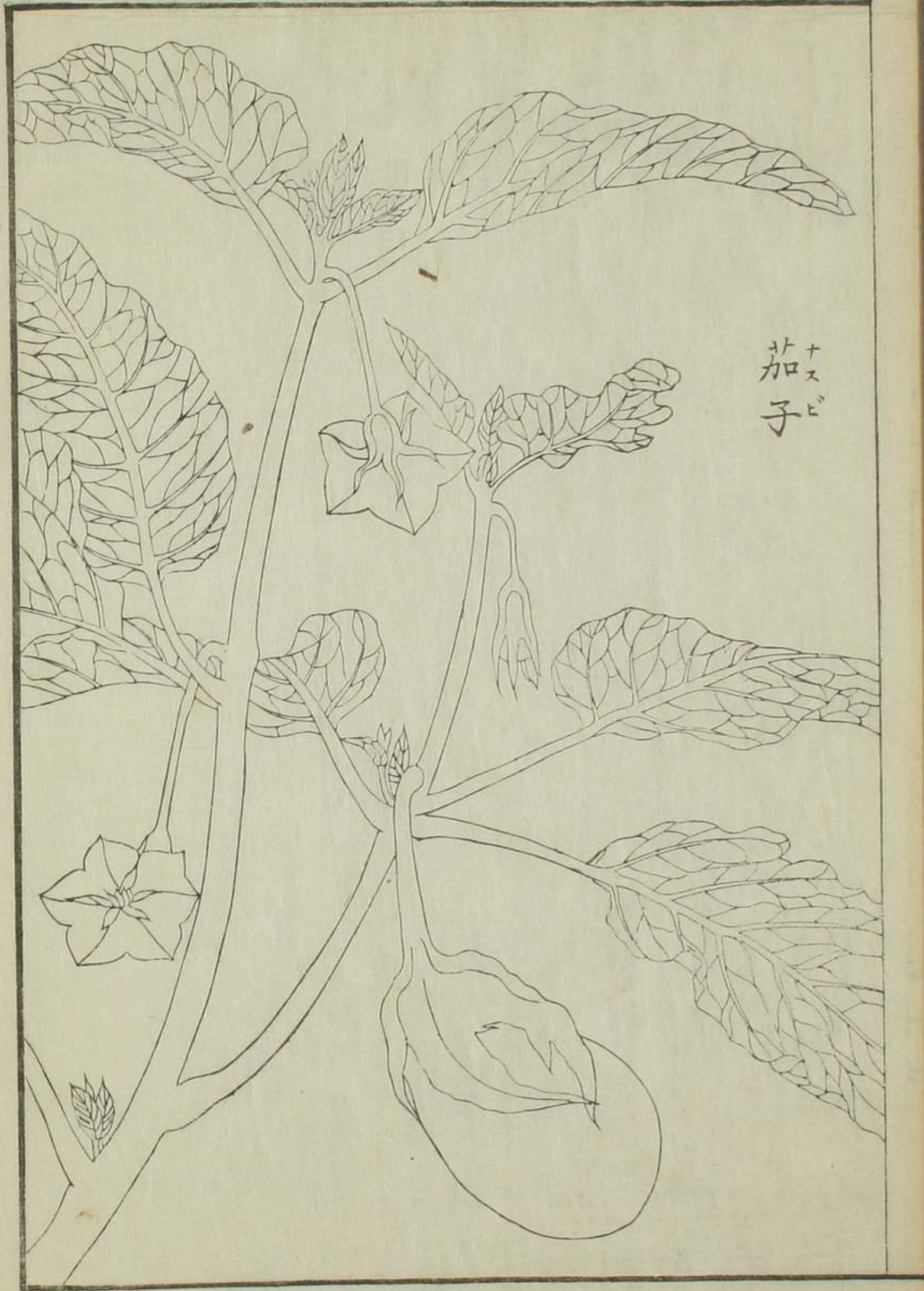
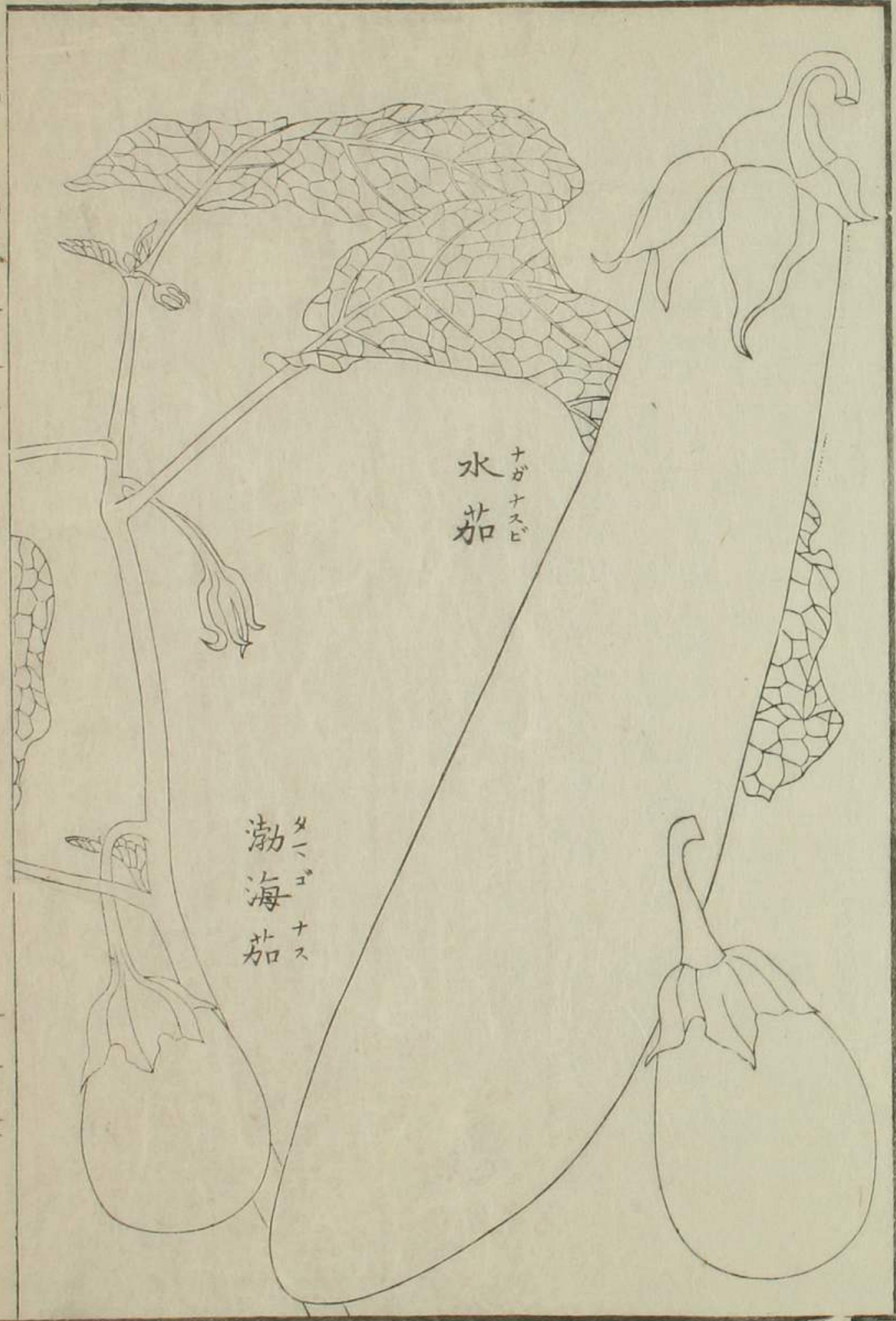
苦瓜 錦荔枝 瀨葡萄 荒本 紅瓢 泉州 苦累 臨桂  
 以上救

紅姑娘 秘傳 花鏡 菩蓮 君子菜 以上廣 州荔枝 山東  
 東新語

蕃名 上セルス コンコムノレン 此の園子栽盆子種籬子治井子傳し其安熱の時炎玩

小供ふべし○春種下し苗発て漸く蔓出るに隨て葉間  
 あり細絲蔓と生し樹并に纏ふ也一丈ほど細軟な  
 葉ハ莢罌葵に似て花又かしく四月五辨乃莢花と開  
 く形楕乃ぶとし六月絲蔓と出し實を結び下葉大  
 さ四寸圍也さむとさむと狀首尾尖呈眩大あわ皮上  
 癩癩の之あり荔枝殼の如し始ハ青色後子黄あして竟  
 小金紅小變に純紅ば自裂て紅瓢と露し其肉味甘し食  
 ぶし皮ハ甚苦し子西瓜子に似く邊に缺刻あり  
 藥子入煎し○未だ熱さる中子油小熬煎て酒食子供に  
 頗る苦とわれど一燈の瓶あり釋氏嘗てつり一





して土と懸おろ子と灰水子浸し砂壤子拌て蒔べし而  
 苗の二三寸長し時或ハ跡で或ハ地に移し并子敷肥  
 し定て柔むるべし既子移栽て或ハ小黒虫葉子附わ  
 ば速子取除くべし稍孕さしむりハ滋茂易し藤根の  
 周と柔む可し又根切虫土頭株を切倒し根下と  
 堀を各除盡し或ハ株の時竹ばとて土既窪と捲り凡  
 種下てあり七十日ゆみハ花実取着ものあり食鹽日  
 葉生小虫如黒胡麻子又生青虫俗稱油虫黒虫易除油虫  
 難除若欲避之四五日移苗時用竹針刺根莖之分處入真  
 硫黄末而植之則不生與又篩振散于苗上則不生油虫黒虫  
 前用好硫黄細末入馬尾篩振散于苗上則不生油虫黒虫  
 也早年子て移栽かしぐの印ハ晩景をとて種つ、白

日ハ蓋とふやば活命すし凡肥者色水ハ紫屈籠て長起  
 ぞ又宿土子抄と忌といつども必以てわくくを唯畠と  
 治るの精細みよりのと西州の茄子ハ長く大なり是を  
 長茄と稱し此種我中日向の者ハ皮薄く細長にて味淡  
 少り食植物子よろし其園とのハは硬して次あり上方  
 以東ハ是ハ反ひ容く小くそそ子のハみくくは他大  
 小早晚累顆等紫黒白の品種あり蓋此もの暖地子よろ  
 し伸縄地方の茄子ハ冬と種て洞まき明年花葉と結し  
 子と結ぶ劉珣嶺表録ハ交嶺茄樹經冬不凋有二三年漸  
 成大樹者其實如瓜也されど茄子秋氣を得てあり結實

多うら<sup>ハ</sup>汁<sup>シ</sup>が<sup>ハ</sup>冷<sup>マ</sup>も<sup>ハ</sup>妻<sup>メ</sup>也<sup>ハ</sup>奈<sup>レ</sup>良<sup>ク</sup>の古<sup>ク</sup>歌<sup>ハ</sup>に秋<sup>ノ</sup>末<sup>ノ</sup>を<sup>ハ</sup>  
 已<sup>ス</sup>く<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>敷<sup>キ</sup>み<sup>ハ</sup>つ<sup>キ</sup>ま<sup>ア</sup>せて<sup>ハ</sup>媳<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>與<sup>ル</sup>し<sup>ハ</sup>桐<sup>ノ</sup>子<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>是<sup>レ</sup>媳<sup>ハ</sup>  
 子<sup>ハ</sup>な<sup>ク</sup>く<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>あ<sup>ク</sup>と<sup>ハ</sup>忌<sup>ム</sup>の<sup>ハ</sup>穉<sup>キ</sup>あ<sup>リ</sup>○子<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>收<sup>メ</sup>る<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>早<sup>ク</sup>  
 成<sup>テ</sup>能<sup>ク</sup>熟<sup>ス</sup>と<sup>ハ</sup>擇<sup>ビ</sup>二<sup>ニ</sup>に<sup>ハ</sup>破<sup>レ</sup>て<sup>ハ</sup>陽<sup>ノ</sup>處<sup>ニ</sup>に<sup>ハ</sup>挿<sup>シ</sup>を<sup>ハ</sup>べ<sup>シ</sup>  
時摘取擊破水淘子取沈者 ○本<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>と<sup>ハ</sup>見<sup>ル</sup>子<sup>ハ</sup>白<sup>ク</sup>花<sup>ト</sup>或<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>蔓<sup>ノ</sup>生<sup>ル</sup>  
速曝乾裏置至二月畦種 の<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ハ</sup>載<sup>シ</sup>う<sup>ラ</sup>れ<sup>ル</sup>と<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>間<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>終<sup>ニ</sup>に<sup>ハ</sup>及<sup>ビ</sup>と<sup>ハ</sup>沖<sup>ノ</sup>港<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>  
 も<sup>ハ</sup>終<sup>リ</sup>了<sup>ル</sup>ぬ<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>升<sup>ル</sup>氏<sup>ハ</sup>々<sup>々</sup>黄<sup>ク</sup>壁<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>晚<sup>ク</sup>峯<sup>ハ</sup>わ<sup>カ</sup>る<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>西<sup>ノ</sup>清<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>茄<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>芽<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>  
 守<sup>レ</sup>れ<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>斯<sup>ク</sup>國<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>お<sup>ト</sup>く<sup>ハ</sup>紫<sup>ク</sup>色<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>物<sup>ハ</sup>お<sup>シ</sup>皆<sup>ク</sup>銀<sup>ノ</sup>茄<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>色<sup>ハ</sup>白<sup>ク</sup>  
 ふ<sup>ア</sup>て<sup>ハ</sup>甘<sup>ク</sup>水<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>さ<sup>マ</sup>め<sup>ル</sup>の<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ヤ<sup>ク</sup>し<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ハ<sup>ハ</sup>実<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>好<sup>ム</sup>  
 くり ○本<sup>ノ</sup>朝<sup>ノ</sup>式<sup>ハ</sup>大<sup>ニ</sup>膳<sup>部</sup>未<sup>ク</sup>醬<sup>漬</sup>糟<sup>漬</sup>醬<sup>漬</sup>茄<sup>子</sup>あり ○内<sup>膳</sup>

式<sup>ハ</sup>漬<sup>キ</sup>秋<sup>ノ</sup>菜<sup>ノ</sup>料<sup>ハ</sup>茄<sup>子</sup>五<sup>石</sup> 料塩三斗 醬<sup>漬</sup>茄<sup>子</sup>六<sup>斗</sup> 料塩一斗二升 汁<sup>ハ</sup>糟<sup>一斗八升</sup> 庭<sup>訓</sup>茄<sup>子</sup>と<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>え<sup>ル</sup>  
 斗<sup>ハ</sup>八<sup>升</sup> 糟<sup>漬</sup>茄<sup>子</sup>六<sup>斗</sup> 汁糟一斗八升 庭<sup>訓</sup>茄<sup>子</sup>と<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>え<sup>ル</sup>  
 し<sup>ハ</sup>俗<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>ゆ<sup>キ</sup>乃<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>遵<sup>ル</sup>生<sup>ハ</sup>八<sup>棧</sup>の<sup>ハ</sup>糟<sup>漬</sup>茄<sup>子</sup>ハ<sup>ハ</sup>糠<sup>漬</sup>奈<sup>良</sup>子<sup>ハ</sup>  
 漬<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>芽<sup>也</sup>今<sup>ハ</sup>小<sup>カ</sup>茄<sup>ハ</sup>芥<sup>粉</sup>み<sup>ハ</sup>漬<sup>ス</sup>と<sup>ハ</sup>糟<sup>漬</sup>と<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>寒<sup>山</sup>子<sup>ハ</sup>  
 茄<sup>串</sup>と<sup>ハ</sup>將<sup>テ</sup>僧<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>背<sup>上</sup>と<sup>ハ</sup>お<sup>シ</sup>あ<sup>ト</sup>大<sup>ニ</sup>截<sup>シ</sup>一<sup>覧</sup>み<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>え<sup>ル</sup>と<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>  
 南<sup>嶺</sup>子<sup>ハ</sup>曰<sup>ク</sup>菽<sup>ノ</sup>子<sup>ハ</sup>香<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>物<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>草<sup>澤</sup>醬<sup>子</sup>の<sup>ハ</sup>功<sup>者</sup>乃<sup>ハ</sup>り<sup>と</sup>い<sup>ハ</sup>  
 ふ<sup>漬</sup>と<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>尾<sup>池</sup>乃<sup>ハ</sup>名<sup>見</sup>屋<sup>乃</sup>乃<sup>ハ</sup>海<sup>島</sup>一<sup>道</sup>  
 海<sup>東</sup>郡<sup>乃</sup>波<sup>子</sup>杜<sup>と</sup>い<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>新<sup>子</sup>菽<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>に<sup>ハ</sup>魚<sup>と</sup>ふ<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>海<sup>島</sup>  
 の<sup>ハ</sup>瓜<sup>茄</sup>子<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>葵<sup>乃</sup>種<sup>と</sup>少<sup>し</sup>加<sup>テ</sup>て<sup>ハ</sup>毎<sup>年</sup>極<sup>月</sup>廿<sup>五</sup>日<sup>熟</sup>田<sup>ノ</sup>  
 社<sup>乃</sup>煤<sup>拂</sup>と<sup>ハ</sup>二<sup>月</sup>初<sup>午</sup>此<sup>ハ</sup>休<sup>日</sup>子<sup>ハ</sup>献<sup>ル</sup>此<sup>ノ</sup>島<sup>乃</sup>物<sup>あり</sup>い<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>弘<sup>ノ</sup>

この事子を

氣味甘く性寒し一て毒なし女人は子宮と傷り秋後多  
く食へば目と損ふ媳は共ドの歌蓋古傳ふ所ありと  
いつり○主治某の家法は子産後瘀血ふて小腹痛に湯液  
中乾茄蒂を加味す此バ痛立所止と云○又瘡痕高く  
起て復さる子茄蒂と火子ゆかりて敷く其上と熨と記  
ハ驗あり是れ古俗乃單法也○茄樹ハ乾して楊枝子化  
るべし○茄子水子蒸し食へバ葷毒を解まると煎汁と  
飲もよし本朝○小兒疳風撮口は茄子の花一味細末  
おし麻油子て煉り口ゆみ塗て良し○諸香瘡は茄子

蒂と黒焼細末おし乾する時臘臍脂とと子下子附上に  
右の薬と搦かくべし鹿茸霜加てよし○肩脊痛を治  
る子ハ蒼耳葉茄子葉蓖麻葉三色の葉何れも痛む所又  
七重或ハ十重かどしきその上より火質汁ととくし○  
連珠登は螻蛄連珠カサとて筋子附ていれくおも腫と茄  
子の香物と瓜犀カサに切て螻蛄とひりて香物子搽  
て瘡の腫るる上子針と刺針目へ柄へ入る膏は消る也  
○底耳カサハ茄子の香物味醬漬三のけと絞糸一滴入  
べし○苗艱カサ瘡て痛む子ハ茄子の香物黒焼ゆき入  
ひ菌子塗べし○又方茄子莖カサ黒焼塗てよし○又方茄子

帶紅心灰藿各黑燒甘草少細末小し齒の圍子附る○虫  
 牙子ハ茄子木細末小し乳香結沙少入身共み細末し附  
 ぶし○又方茄子花大黒燒塩が三味合セ糊子  
 て丸め銜むべし○牙齦腫齒浮痛みハ茄子香物三年十  
 焼十香附子生一分飯十焼細末小し附る○口瘡一切子  
 ハ茄子帶燒乾青黛各等細末小し附る○口瘡一切子  
 肉と去る好肉と生るハ茄子香物三年あるとハ  
 粉を塗細末小し附る○一切の腫物と消て痛と止る  
 子ハ茄子と兩子破内と刺腫此上と蓋ハ小麦粉を細子  
 て煉茄子の圍と塗て蓋し○霜雪爛及竈瘰子ハ茄子

根葉 水おてよ子細子煎し洗ふべし○白禿子茄子干陰赤  
 土硫黄伊末ふし茄子の切口おて能く揩て附べし○紫  
 癩風子ハ茄子干赤土中雄黄小細末小し麻油おて細附  
 べし○唐瘰子ハ末の茄子蒂と去て輪切みし細み入身  
 煎し濾かめ乾て附べし稀ば松脂と入あり○菊純膏  
 の方即膏茄子代用○法あり繁縷叶て一尺一束石菖  
 根七寸七寸切て蓮葉十枚小葉十枚系み寸六味水二  
 斗三升おて一日一炷火と絶さば煎し二日月子布おて  
 濾よ子加減子煉つめ此膏ハ菊の腫物の押薬おて七  
 日より内の腫物おし又方各○神明一粒凡人参三





用カニ子カニなカニさカニどカニ盆カニ中カニにカニ栽カニてカニ文カニ房カニ几カニ案カニの間カニにカニ伏カニふカニ○今カニ紀カニ伊カニ  
地カニ方カニにカニてカニ糟カニ茄カニをカニ作カニへカニ遠カニにカニ致カニしカニものカニ皆カニ白カニ茄カニありカニそのカニ大カニ  
さカニ荷カニ苞カニ茄カニのカニ如カニしカニ三カニりカニれカニどカニ卵カニ茄カニとカニハカニ別カニ種カニありカニ他カニ亦カニのカニ  
とカニのカニほカニ多カニくカニ毒カニありカニ食カニ料カニにカニ中カニらカニどカニ宋カニのカニ黄カニ晋カニ直カニがカニ謝カニ送カニ銀カニ  
茄カニ詩カニにカニ君カニ家カニ水カニ茄カニ白カニ銀カニ色カニ殊カニ勝カニ埧カニ裏カニ紫カニ彭カニ亨カニ蜀カニ人カニ生カニ疎カニ不カニ下カニ  
著カニ吾カニ與カニ北カニ人カニ俱カニ眼カニ明カニ

